

庄内川で採集された魚類

荒尾一樹*

Fishes collected from the Shounai River, Nagoya City, Aichi Prefecture, Japan

Kazuki Arai*

はじめに

庄内川は岐阜県恵那市の夕立山に水源を発し、愛知県名古屋市で伊勢湾に流出する延長約96kmの一級河川である。庄内川水系の魚類については、荒尾ほか(2007)、広(1975)、建設省河川局河川環境課監修(1996, 1999)、駒田(2000)、大仲(1994)、高田(1974)などにより報告されている。今回、筆者も名古屋市内の庄内川で魚類調査を行った。その結果、庄内川から報告がない種や愛知県(2002)、名古屋市動植物実態調査検討会監修(2004)のレッドデータブック、環境省自然環境局野生生物課(2007)のレッドリストに掲載されている種を含む10種の魚類が採集されたので、その結果をここに報告する。

方法

調査は2007年5月20日に愛知県名古屋市中村区地先の庄内川で行った。周辺の河川形態はBb型で、調査は主に砂混じりの礫底の瀬で行った。当日の天候は晴れ、水温は22.2℃であった。採集にはタモ網(目合2.5mm)を使用した。採集された魚類は1種につき1~7個体を10%ホルマリン水溶液で固定し、標本とした。多数採集された種については、種の同定後、放流した。標本は豊橋市自然史博物館魚類資料(TMNH-F)として登録・保管した。種の同定、配列、和名、学名は明記したもの以外は中坊編(2000)に従った。

結果

調査の結果、5科10種の魚類が採集された。以下に各種について採集状況などを記す。

ウナギ科 Anguillidae

1. ウナギ *Anguilla japonica*

標本 TMNH-F1075, 3個体, 体長56.2~120.6mm.

採集状況 遡上中と考えられる個体が多数採集された。

文献記録 庄内川水系では上~下流域で広く確認されている(高田, 1974; 建設省河川局河川環境課監修, 1996; 1999; 駒田, 2000)。

備考 名古屋市動植物実態調査検討会監修(2004)では「準絶滅危惧」、環境省自然環境局野生生物課(2007)では「情報不足」に評価されている。

コイ科 Cyprinidae

2. オイカワ *Zacco platypus*

標本 TMNH-F1076, 1個体, 体長26.7mm.

採集状況 1個体だけ遊泳しているところを採集された。

文献記録 庄内川水系では上~下流域で広く確認されている(高田, 1974; 広, 1975; 建設省河川局河川環境課監修, 1996; 1999; 駒田, 2000; 大仲, 1994)。

アカザ科 Amblycipitidae

3. アカザ *Liobagrus reini*

標本 TMNH-F1077, 1個体, 体長56.9mm.

* 株式会社環境科学研究所. Environmental Science Laboratory Co., Ltd., 152 Wakazuru-cho, Kita-ku, Nagoya, Aichi 462-0006, Japan.

原稿受付 2007年12月19日. Manuscript received Dec. 19, 2007.

原稿受理 2007年12月26日. Manuscript accepted Dec. 26, 2007.

キーワード: 魚類, 庄内川, 名古屋市, 愛知県.

Key words: Fishes, Shounai River, Nagoya City, Aichi Prefecture.

採集状況 1個体だけ礫の間に潜んでいるところを採集された。

文献記録 庄内川水系では上～中流域で確認されている(高田, 1974; 大仲, 1994; 建設省河川局河川環境課監修, 1996; 1999; 駒田, 2000)。庄内川の中～下流域に当たる名古屋市内からの報告は少なく, 本調査地点より上流の守山区地先で建設省河川局河川環境課監修(1996)により2個体, 駒田(2000)により1個体が報告されている他, 筆者も同じく守山区地先で2004年4月26日に1個体採集している程度である。

備考 愛知県(2002)では「準絶滅危惧」, 環境省自然環境局野生生物課(2007)では「絶滅危惧Ⅱ類」に評価されている。

カジカ科 Cottidae

4. カマキリ(アユカケ) *Cottus kazika*

標本 TMNH-F1078, 2個体, 体長33.6, 43.2mm.

採集状況 遡上中と考えられる個体が3個体採集された。

文献記録 庄内川水系では確認されていなかった(高田, 1974; 広, 1975; 大仲, 1994; 建設省河川局河川環境課監修, 1996; 1999; 駒田, 2000; 愛知県, 2002; 荒尾ほか, 2007)。名古屋市内でも確認されていなかった(名古屋市動植物実態調査検討会監修, 2004)。

備考 愛知県(2002)では「準絶滅危惧」, 環境省自然環境局野生生物課(2007)では「絶滅危惧Ⅱ類」に評価されている。

5. ウツセミカジカ(カジカ小卵型; 両側回遊型) *Cottus reinii*

標本 TMNH-F1079, 2個体, 体長24.0, 24.7mm.

採集状況 遡上中と考えられる個体が2個体採集された。

文献記録 庄内川水系では確認されていなかった(高田, 1974; 広, 1975; 大仲, 1994; 建設省河川局河川環境課監修, 1996; 1999; 駒田, 2000; 愛知県, 2002; 荒尾ほか, 2007)。名古屋市内でも確認されていなかった(名古屋市動植物実態調査検討会監修, 2004)。

備考 愛知県(2002), 環境省自然環境局野生生物課(2007)では「カジカ小卵型」として扱われている。愛知県(2002)では「準絶滅危惧」, 環境省自然環境局野生生物課(2007)では「絶滅危惧ⅡB類」に評価されている。

ハゼ科 Gobiidae

6. スミウキゴリ *Gymnogobius petschiliensis*

標本 TMNH-F1080, 7個体, 体長19.1～25.9mm.

採集状況 遡上中と考えられる個体が中層を群泳しているところを多数採集された。

文献記録 庄内川水系では中流域で確認されている(建設省河川局河川環境課監修, 1999)。

備考 同属のウキゴリ *G. urotaenia* も庄内川水系の中流域で確認されているが(建設省河川局河川環境課監修, 1996; 1999), 本調査でウキゴリは採集されなかった。本属魚類の学名は分類学的検討を行った Stevenson(2002)に従った。

7. マハゼ *Acanthogobius flavimanus*

標本 TMNH-F1081, 3個体, 体長29.3～41.8mm.

採集状況 遡上中と考えられる個体が多数採集された。

文献記録 庄内川水系では中～下流域で確認されている(広, 1975; 建設省河川局河川環境課監修, 1996; 1999; 駒田, 2000)。

8. アシシロハゼ *Acanthogobius lactipes*

標本 TMNH-F1082, 1個体, 体長43.7mm.

採集状況 遡上中と考えられる個体が2個体採集された。

文献記録 庄内川水系では下流域で確認されている(建設省河川局河川環境課監修, 1996)。

9. ゴクラクハゼ *Rhinogobius giurinus*

標本 TMNH-F1083, 1個体, 体長43.2mm.

採集状況 遡上中と考えられる個体が多数採集された。

文献記録 庄内川水系では中～下流域で確認されている(建設省河川局河川環境課監修, 1996; 1999)。

10. ヌマチチブ *Tridentiger brevispinis*

標本 TMNH-F1084, 1個体, 体長58.6mm.

採集状況 礫底で多数採集された。

文献記録 庄内川水系では陸封個体群が上流域(大仲, 1994), 両側回遊個体群が下流域で確認されている(建設省河川局河川環境課監修, 1996; 1999)。

考 察

本調査ではウナギ, カマキリといった降河回遊魚,

ウツセミカジカ, スミウキゴリ, ゴクラクハゼ, ヌマチチブといった両側回遊魚が多く確認された。これは、河口から本調査地の間に堰などの横断障害物がなく、海域からの遡上が容易であるためと考えられる。しかし、調査地より上流には複数の堰が存在する。堰に設置される魚道はアユ *Plecoglossus altivelis altivelis* などの産業重要種を対象に設計されることが多く、本調査で確認されたカマキリは階段式魚道やごく低い堰でも遡上が阻害される(後藤, 2001)。遡上力の弱いカマキリなども遡上可能な魚道の設置が河川の生物多様性回復に重要である。

降河回遊魚のウナギの遡上量は河川の水温, 潮汐, 気象条件などに左右される(多部田, 2001)。また、両側回遊魚のアユの河川への遡上量は年変動が激しい(相澤ほか, 1999; 蓑宮・戸井田, 2002 など)。本調査で確認された降河回遊魚のカマキリ, 両側回遊魚のウツセミカジカ, スミウキゴリ, ゴクラクハゼ, ヌマチチブも河川への遡上量は日あるいは年によって変動するものと考えられ, カマキリ, ウツセミカジカがこれまで庄内川で確認されていなかった一因と考えられる。今後も庄内川の魚類調査を継続して, 動向に注意することが重要であると考えられる。

引用文献

- 愛知県, 2002. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち-動物編-. 愛知県環境部自然環境課, 愛知, 596p.
- 相澤 康・安藤 隆・勝呂尚之・中田尚宏, 1999. 相模川におけるアユ, *Plecoglossus altivelis* の遡上生態について. 水産増殖, 47 (3) : 355-361.
- 荒尾一樹・山上将史・大仲知樹, 2007. 愛知県の河口域魚類. 豊橋市自然史博研報, (17) : 29-40.
- 後藤 晃, 2001. アユカケ. 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海(編), 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚 改訂版, 山と溪谷社, 東京, 655-657.
- 広 正義, 1975. 魚類. 建設省庄内川工事事務所, 庄内川の水生生物, 建設省庄内川工事事務所, 愛知, 125-139.
- 環境省自然環境局野生生物課, 2007. 哺乳類, 汽水・淡水魚類, 昆虫類, 貝類, 植物 I 及び植物 II のレッドリストの見直しについて.
<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=8648>.
- 建設省河川局河川環境課, 1996. 平成 5 年度 (BOOK & CD-ROM) 河川水辺の国勢調査年鑑 魚介類調査, 底生動物調査編. 山海堂, 東京, 80p.
- 建設省河川局河川環境課監修, 1999. 平成 9 年度 (BOOK & CD-ROM) 河川水辺の国勢調査年鑑(河川版) 魚介類調査, 底生動物調査編. 山海堂, 東京, 73p.
- 駒田格知, 2000. 庄内川水系の魚類相. 名古屋女子大学生生活科学研究科, 庄内川流域の生活と環境, 名古屋女子大学生生活科学研究科, 愛知, 449-465.
- 蓑宮 敦・戸井田伸一, 2002. 相模川におけるアユ仔魚の降下生態. 神奈川県水産総合研究所研究報告, (7) : 85-95.
- 名古屋市動植物実態調査検討会監修, 2004. 名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックなごや 2004 - 動物編 -. 名古屋市環境局環境部都市推進部環境影響評価室, 愛知, 368p.
- 中坊徹次編, 2000. 日本産魚類検索 全種の同定 第二版, 東海大学出版会, 東京, 1748p.
- 大仲知樹, 1994. 五条川上流部の魚類相. 神奈川自然保全研究会報告書, (12) : 9-12.
- Stevenson, D. E., 2002. Systematics and Distribution of Fishes of Asian Goby Genera *Chaenogobius* and *Gymnogobius* (Osteichthyes: Perciformes: Gobiidae), with the Description of a New Species. *Species Diversity*, 7: 251-312.
- 多部田修, 2001. ウナギ. 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海(編), 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚 改訂版, 山と溪谷社, 東京, 47-49.
- 高田 晃, 1974. 土岐川水系の魚類. 岐阜県高等学校生物教育研究会(編), 岐阜県の動物, 大衆書房, 岐阜, 119-120.